



CHERIA チエリア

2022.Winter
vol.

65



写真提供:ボーカルスタジオ

加藤 千恵 かとう ちえ

1904年酒田筑後町生まれ。音楽指導者。

1920年、酒田高等女学校(現:酒田西高)を卒業し東京音楽学校(現:東京芸術大学)甲種師範科に進学。卒業後に大阪府立寝屋川高等女子学校(現:寝屋川高校)、京都市立堀川高等女学校(現:堀川高校)に勤務。1940年、宝塚歌劇団声楽主任に就任、1943年にNHK大阪中央放送局の嘱託として同局放送合唱団を指導。終戦直後に酒田に戻り1946年に浄福寺の本堂を借りてボーカルスタジオを開設。声楽、合唱、ピアノを指導し音楽の普及、後進の育成に取り組んだ。歌手の岸洋子、市原多朗氏もその門下生である。1956年に東北地方では初めてと思われる市民オペラ「ミカド」を上演、1965年に斎藤茂吉文化賞を受賞、1987年には酒田市名誉市民となった。

1991年 永眠

表紙:山形県のゆかりの女性

61号から様々な分野で活躍された山形県ゆかりの女性たちを紹介しております。



CONTENTS

2-3 チェリアフェスティバル山形2022

4 チェリア塾基本コースin庄内

チェリア塾実践コースin村山 自主企画事業

5 令和4年度 山形県男女共同参画社会づくり功労者等知事表彰 ちがいがわかる男のコーヒー講座 vol.7

6 やまがた女性キャリアアップセミナー

プライドパレード

実務者研修会

7 パープルリボンプロジェクト

DV防止講座

8 伊藤館長 コラム

遠藤泰夫さん 来館

山形2022

ちがいを越えて
平和と未来へ紡ぐハーモニー



日時 2022年10月1日(土)～10月10日(月祝)

会場 遊学館(山形市緑町1-2-36)



演題

「誰もが知っておきたい性と生殖に関する健康と権利」

#なんでもないのプロジェクト主宰

福田 和子 氏



皆さん、こんにちは。福田和子と申します。今日の一歩の目標は「エンパワメント」です。これは、「能力開花の妨げとなるさまざまな社会的抑圧や不安から解放され、社会的資源へのアクセス、対等な存在として政治・経済・社会・文化的生活への参画、権利などが満たされること。さらに、それが本来自分に備わっている能力を最大限に活かし、生活や環境を自分自身でコントロールする力を持てるようになること」という意味です。

Sexual and Reproductive Health and Rights (性と生殖に関する健康と権利) はすべての人が自分のからだについての選択を自由にできるという人権の話です。想定外妊娠や性感染症防止がイメージされがちですが、心や社会的幸福、すべての面で満たされるといのが実現されることを指します。セクシュアリティや生殖、性に対して肯定的で、楽しみながら築ける性的な関係、個人の自尊心や幸福、それらが大切にされる概念です。自分のからだは自分のもの、プライバシーや個人の選択が尊重され、性的指向、ジェンダー自認、性表現を含めて自由に定義でき、パートナー、性体験、結婚、子どもを持つか否か、それらを自分の意思でするかしないか、するならいつか等を自分で決められることなど含まれます。避妊や中絶、不妊治療、性感染症をはじめ、それらに関する必要な情報、資源、支援に差別や強制、搾取、暴力無しでアクセスできることはSRHRとして私たち皆に認められている権利です。

この権利は、長い間人々が闘ってきた歴史があり、転機は1994年のカイロ会議と1995年の北京会議です。ここで国際的に性や生殖に関する個人の選択が権利として認められました。また、同時にReproductive Justice (正義) の概念も唱えられ一番中心にあるべきは本人が尊重されたと思え、心身ともに満足できることであってそのためにも人権の尊重や協力的なヘルス・システム、情報へのアクセスが一層求められる世界になってきています。

まず、恋愛についてですが、価値観は世代やコミュニティが異なれば違って良いし、自分と他者が違うからといって否定せず、自身が望むあり方で考えられる、これがSRHR実

現のためには大切な一歩です。セクシュアリティについて自由に定義でき、性のパートナーを選べることも大切でsexual orientation 性的指向、Gender identity 性自認について(SOGI) 自分はどうかと考えるみてください。また、性行為が安全で楽しめるものであることも私たちの権利です。それには、例えば性感染症の予防、検査、治療や望まない妊娠を防ぐ避妊等の安全の確保がまずは重要です。同時に、他者からの暴力や強制なしに、誰とセックスするか、妊娠したいかしたくないかなどの自分が許容できる範囲、境界線(バウンダリー)が尊重されることも重要です。この性的行為をする前に確認すべき同意を「性的同意」といいます。性的同意のない性行為は性暴力に繋がります。

次に、避妊についてはどうでしょう。避妊は想定外の妊娠を防ぐだけでなく、自分のキャリアや人生計画を助けてくれます。避妊といえばコンドーム、最近は低用量ピルも使う方が増えています。低用量ピルや子宮内避妊具は効果が高く、月経困難症の軽減にも有効で女性が主体的に使えるというメリットもあります。私はスウェーデン留学時に、産婦人科医や助産師、ソシヤルワーカー、カウンセラー等がいて13〜25歳の若者向けに250以上存在するユースクリニックで、いろいろな避妊方法を教わりました。ピルのように飲み忘れや毎日飲むのが難しい方には避妊インプラントという二の腕の下に入れ、ホルモンが出ることで約3年間避妊ができるものや、一回入れると3〜5年もつ子宮内避妊具、また一回打つと約3か月もつ避妊注射もあります。避妊パッチや自分で入れる膈リングは、一回貼る(入れる)と3週間継続、一週間休みの4週間のサイクルを繰り返すという方法です。他にも殺精子剤のジェルや女性用コンドームなどの方法もあります。これらはどの国でも誰もが入手できる価格で提供されるべき安全且つ最低限必要な薬(WHOの必須医薬品)リストに入っているものになります。自分の性格やライフプラン、パート



ワークショップ、県民交流コーナー、展示発表

オープニングアトラクション

化学実験やマッサージ体験企画など多彩なワークショップが開催されました。

美しいまがたアルプホルンクラブによる演奏



チェリアフェスティバル



この時期の恒例となっているチェリアフェスティバルは今年で22回目を迎えました。

当日は記念講演会、男女共同参画社会づくりを目指して活動している団体・グループの展示発表やワークショップ等が開催されました。

ジェンダーギャップ指数は156か国中47位、歴代の首相は全員男性、女性議員比率も衆議院では1割弱、女性知事も全国は2人だけ。地方議会では1万8738人中20代女性の議員はたったの11人、30代を合わせても



5.1%しかいません。若い世代はジェンダー平等が進んでいるイメージがあると思いますが、実はそうではなく、若年女性の代表がない状況が見えます。その中で性教育含め避妊や中絶の問題が置き去りにされてきたわけです。

日本における避妊は、コンドーム二辺倒、膈外射精も未だ多いです。破損等で避妊を失敗する確率がコンドームが13%です。性暴力の際やピルの飲み忘れなども含め、妊娠を防ぐバックアップとして使えるのが緊急避妊薬です。これもWHOの必須薬品リストに入るもので、現在世界90か国以上の薬局で手に入ります。仏や英など医療機関で無料の国やスウェーデンのように薬局でも千円代で手に入る国がある一方、日本は処方箋が必要で、六千円〜万円超といった値段です。特に連休時には病院への72時間以内の確実なアクセスは難しく、「ピルにゃん」というサイトでは休日も入手できる医療機関をまとめています。また、オンライン診療の仕組みもあるので、必要な人がいたら教えてもらえると嬉しいですね。

避妊の話をしてきましたが、今度は人工妊娠中絶の話です。日本には中絶を禁止する堕胎罪があります。同時に母体保護法指定医の管理や配偶者同意等一定の条件が揃えば、身体や経済的な理由、レイプ等による中絶を合法とする母体保護法がある状況です。ただ配偶者同意(夫の許可)の要件は特に、女性は自分のからだのことなのに、最終的な決定権を男性に握られている、これはジェンダー不平等を端的に表していると思います。方法も、中絶薬が身体に負担が少なく世界で一般的になりつつある中で、日本ではまだ認可されていません。昔から行われている掻爬法は、WHOのガイドラインでは中絶薬や吸引法に置き換えるよう言われており、SRRHRの観点からも安全な中絶が実現できていないと言えます。

日本はピルの認可が1999年、国連加盟国の中で最後の国でした。そういう状況だからこそ知識のアップデートは重要ですが結果的に、経口避妊薬の承認には40年以上かかったことになりました。一方で、勃起不全治療薬バイアグラは承認まで半年という異例のスピードでした。権利や医療として大事にということ以上に男性中心の当事者がいない議会のあり方がわかりやすい例かと思えます。しかし、男性優位社会における女性軽視、男性による長老支配はどこまで変わったのでしょうか？現在、世界経済フォーラム

5.1%しかいません。若い世代はジェンダー平等が進んでいるイメージがあると思いますが、実はそうではなく、若年女性の代表がない状況が見えます。その中で性教育含め避妊や中絶の問題が置き去りにされてきたわけです。

実は50歳以上の方々、特に女性の閉経後のセクシュアリティというのもタブー化されてきました。癒しやぬくもり、ケア、セルフプレジャーという部分は、本来、生涯続いていくものです。「この歳でそんなこと」と考えるのは非常にさみしいことですよ。男性の場合、確かに何歳になっても勃起し続けるには、といった関心は高いですが年齢を重ねて女性は性への関心を失うのかというと、そうではありません。若い頃とは形を変えた性的関わりを通して親密さを求めている人は多く、一方的ではない、誰もが尊重されるセクシュアル・プレジャーの実現を願うばかりです。更年期についても「他者と話す、経験を聞く」というオープンでポジティブな場が生涯通じてあればなと感じます。産婦人科の医師らがまとめた「human+女と男のディクシオナリー」という思春期から中高年期まで必要な情報がありますので、興味のある方はぜひ参考にしてください。

では、こうした話を次の世代にどう伝えよう、という時、若者が性や生殖、人間関係などの質問を投げ、それに専門家が答える「セイシル」というサイトがあります。安心できる情報材料として共有させてください。チェリアでも相談の場があり、男性用ホットラインもあって、一人で抱えないというのは大切だと思います。また、私たちが望む変化、例えばSRRHRも確立するぞという人がいなくなったら、権利として認められなくなかったし、声を上げるのはすごく大切なことだと思っています。「#なんでないのプロジェクト」ともう一つ「FIFTYS PROJECT」というのも始めました。意思決定層におけるジェンダーの不平等、例えば、緊急避妊薬の検討会にも女性は約3割、実際に使う当事者の声が届いていないことが多いです。中絶における配偶者同意問題、性暴力の刑法に関しても認められるにはハードルが高い、同性婚や選択的夫婦別姓が認められない、人生にかかわる大きな問題がたくさん置き去りにされています。20代、30代のジェンダー平等にコミットする候補者を応援したり、アクションしたいという子たちのコミュニティを作ろうと動いています。立候補を考えているとか、選挙ボランティアとして手伝ってみたいけど一人では怖いという方がいれば、ぜひ登録いただけたら嬉しいですね。ひとつひとつアクションは小さいかもしれないけれど、皆で変化を起こすために確実な一歩を踏み進んでいけたらと思います。最後までお聞きくださりありがとうございました。

5.1%しかいません。若い世代はジェンダー平等が進んでいるイメージがあると思いますが、実はそうではなく、若年女性の代表がない状況が見えます。その中で性教育含め避妊や中絶の問題が置き去りにされてきたわけです。

5.1%しかいません。若い世代はジェンダー平等が進んでいるイメージがあると思いますが、実はそうではなく、若年女性の代表がない状況が見えます。その中で性教育含め避妊や中絶の問題が置き去りにされてきたわけです。



チェリアフェスティバルを開催するにあたり沢山の方々から、ご協力いただきました。沢山の笑顔に出会えた2日間でした。





チェリア塾基本コースは、男女共同参画を推進するために必要な基礎知識を身に付けスキルを磨く、女性の人材育成講座です。

- 第1回** このモヤモヤはどこから ~ジェンダーと人権~
6月25日(土)10:00~12:30 ★オンデマンド学習有
- 第2回** キャリアデザイン
7月23日(土)10:00~15:00
- 第3回** 自分も相手も大切にするコミュニケーション
8月27日(土)10:00~12:30 ★オンデマンド学習有
- 第4回** 「仕方がない」を「仕方がある」へ
9月24日(土)10:00~12:00 ※オンライン開催
コミュニティ・オーガナイズング ワークショップ
9月24日(土)13:00~15:00 ※オンライン開催
- 第5回** 今日ではゴールをスタートに変える日
10月29日(土)10:00~15:00

会場/オンライン以外は三川町公民館第1・第2研修室

基本コース チェリア塾in庄内

今年度の基本コースは、興味のある方や参加を迷っている方を対象に、チェリア塾修了生が説明を行う「プレ講座&説明会」からスタートしました。第1回・第3回は、開催日までに視聴して事前学習できるオンデマンド配信も準備し、コロナ禍でも自分のペースで参加できるよう工夫を凝らしました。

また第4回は、特定非営利活動法人コミュニティ・オーガナイズング・ジャパン理事で海外在住の鎌田華乃子氏を講師に迎えた「コミュニティ・オーガナイズング」の基礎を学ぶ講座とワークショップをオンラインで開催。ここでは、自分たちの社会を変えていくための手法・考え方について学び、同志との関係構築にあたっては、ストーリー共有の重要性や個々の持つ資源を創造的に組み合わせることで課題解決に導く組織づくりへの理解を深めました。

受講生それぞれが自身の課題や目標と真摯に向き合い、ジェンダーや人権に関する基本的な考え方の習得、コミュニケーションや組織運営のスキル向上を目指した基本コースを14名の方々が修了されました。



実践コース 自主企画事業 いちごCafé

令和4年11月12日(土)

あなたのもやもやを色とことばにしてみませんか

チェリア塾15期生の自主企画事業「いちごカフェ」が行われました。

はじめは「気持ちを色であらわそう」。

小さめの白い紙と、オイルパステルというクレヨンのようなものが配られました。はじめは「自分のやり方は間違っていないかな?」などと戸惑いもありましたが、「自由に色を重ねても良い」という進行係のアドバイスがあり、自分の心のまま、自由に色を重ねていきました。

次は「文章にしてみよう」

こちらは、自分の気持ちを、自分が好きな色の紙に、好きな色で、簡単な言葉でそれぞれ書き出しました。そしてひとりひとりの発表に耳を傾け、うなずき、共感する時間を持ちました。

それぞれの席にウエルカムコメントのメモがあり、かわいらしいお皿で飲み物やお菓子をいただきながらの「いちごカフェ」は、リラックスした参加者さんの笑顔も見られ、15期生の気持ちが伝わる企画でした。

令和4年度「山形県男女共同参画社会づくり功労者等知事表彰」受賞者概要

功労者表彰

多年にわたり男女共同参画社会づくりに特に顕著な功績のあった個人・団体を山形県知事が表彰している賞です。令和4年度は、1名が受賞されました。

いとう けいこ
井東 敬子氏 (鶴岡市)



チャレンジ賞

仕事や地域活動など様々な分野でチャレンジし活躍している個人・団体を山形県知事が表彰している賞です。令和4年度は、1団体が受賞されました。

やまがた
山形ママコミュニティ
まま じゃむ
mama*jam (山形市)

■ 主な功績 ■

好きなことで地域課題を解決する小さな起業「ナリワイ」を目指す「鶴岡ナリワイプロジェクト」を設立。連続講座「ナリワイ起業講座」を通して、「子育てのためフルタイムでは働けない」、「UIターンしたが自分のキャリアを活かせる就労先がない」といった課題を抱えた多くの受講女性に「ナリワイ」という“新しい働き方”を提案し、多様な働き方で自分の能力を発揮するきっかけをもたらすとともに、受講生たちの様々な取り組みによって地域活動のすそ野を広げている。さらに、女性が防災に役立つ情報交換や学び合いを行うSNSコミュニティ「防災女子jam」を立ち上げるなど、防災分野における女性の参画の促進にも貢献している。

■ 主な功績 ■

山形在住の母親たちが山形での育児に関する悩み相談や情報交換を通して相互の親睦を深めるSNSを活用したオンラインコミュニティ活動を展開。県内において先駆的な取り組みであり、団体設立後3年で参加者数700名以上と県内最大規模を誇り、多くの母親の不安解消に貢献し前向きな意識を醸成するなどその活動の社会的意義は大きい。さらに、メンバーが個々人のスキルや意欲に応じ、当該団体の自主事業や他機関との協働事業であるセミナーやイベント等の企画運営に参加することで子育て期における母親の社会参画やキャリア形成を促進している。

令和4年度
男性セミナー

ちがいがわかる 男のコーヒー講座 vol.7レポート



開催日 令和4年10月22日(土)

会場 朝日町西部公民館

講師 I部 (株)東北萬国社 コーヒーインストラクター 赤塚宏之 氏
II部 チェリア塾ネットワーク村山会員ほか

女性はもちろん男性にも男女共同参画について考えるきっかけになればと企画している男性セミナーです。今回のコーヒー講座は、7回目を迎える大好評企画。本格的なコーヒーの淹れ方とワークショップの二部構成で、参加者も楽しみながらおいしいコーヒーを家族で楽しむヒントが得られたようです。

I部は「これであなたもコーヒー名人」と銘打って、ハンドドリップでの淹れ方や様々なコーヒー豆の飲み比べを体験。お湯を注ぐスピードやお湯の温度等によって味わいが変わることに感心していました。香ばしいコーヒーの香りにつつまれながら、和気あいあいと楽しんでいました。

II部は、「わが家の仕事」という資料を用いてのグループワーク。家事を主に誰が担っているのか書き出しグループ内で話し合うことで、自分とそして家族の生活を見つめ直す機会となりました。特に印象的だったのは、参加者21名中ご夫婦5組が参加されたこと。アンケートにも各家庭の生活スタイルをちよつとだけ知ることができ、自分の生活スタイル、夫婦のあり方などを楽しく考える時間を持てた、「さつそく実践してみよう」と思ふなどの感想をいただきました。この度の講座により、家事の負担が軽減できて家族で美味しいコーヒーがゆったり飲めるような気がつきにつながれば良いなと感じました。

01

令和4年度やまがた女性 キャリアアップセミナー

開催日 令和4年10月20日(木)・11月10日(木)

講師 ヒューマン・アプローチ研究会 代表幹事 安達 隆司 氏



キャリアアップに必要なスキルを 職場で活用できるようになる

本セミナーは県内企業で働く女性を対象に、自らのキャリアを考え、組織においてリーダーシップを発揮するために必要な基礎知識や能力を身につけることを目的として開催しました。初めに、どんな職位であれヒューマンスキル(対人能力)は必須であることを学び、相手との信頼関係を築く「積極的傾聴」・相手の感情を考慮しながら、しっかりと言うべきことを伝える話法「アサーション・DESC法」・相手のタイプに応じたコミュニケーション「ソーシャルスタイル」を学びました。コロナ感染対策に注意しながら、グループディスカッションに多く時間を割かれ、どのグループも活発な意見交換が交わされました。参加者からは「こういった知識があるかないとでは全然違うと思った」「これまでの自分の話の聞き方を反省した。上司・同僚の話をしっかり聞きたい」といった感想が寄せられ、充実したセミナーとなりました。

02

やまがたカラフルパレード

開催日 令和4年10月30日(日)



多様な性が尊重される社会の実現を目指して10月30日(日)に山形市で初となるプライドパレード「やまがたカラフルパレード」が開催され、約170名の参加者が山形市中心部約1.5キロを30分かけて歩きました。「やまがたカラフルパレード」は山形大学で2019年から開催されている「カラフルCafé」の参加者有志が中心となって実行委員会を発足させ、誰もが自分らしく生きられる社会にしたいという思いからパレードが企画されました。ゴール地点の文翔館広場では参加者がパレードの成功の喜びを分かち合う場面が見られ笑顔溢れるパレードとなりました。

チェリアから伊藤館長より「誰もが自分らしくお互いを尊重して生きられる社会を目指すアクションに心から賛同し、1人の「参加者」として熱いエールを送ります。」と応援メッセージを送らせて頂きました。

03

実務者研修会

開催日 令和4年10月28日(金)

講師 東北文教大学
公認心理師・臨床心理士
スクールカウンセラー
宮川 系子 氏



若者の抱える悩みとその対応について ～主に若年女性の抱える悩みの観点から～

山形県男女共同参画センターでは、平成14年度より相談機関実務者研修を開催しています。相談内容の多様化により相談機関担当者がより多くのものを学び情報を得ることや、男女共同参画の視点から相談に対応できるような研修会を開催しています。今回は、県内で相談業務に従事している方60名より参加申し込みを頂きZoomによるオンライン開催となりました。学生と日頃対面し相談対応している宮川先生より、若年女性の悩みの要因や特徴、相談にあたり留意する点についてご講演頂きました。参加者から相談に携わる重要性を改めて感じた、出来るだけ相手の気持ちになって相談対応していきたいとの感想を頂きました。

女性に対する暴力をなくす運動 パープルリボンプロジェクト 2022 in YAMAGATA



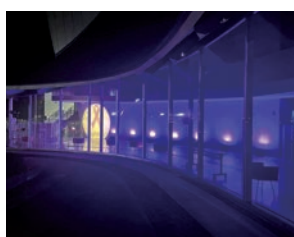
暴力のない社会の実現に向けて、毎年11月12日から25日に内閣府で実施する「女性に対する暴力をなくす運動」にあわせて、「パープルリボンプロジェクト2022inYAMAGATA」を開催しました。

パープルリボンは女性に対する暴力根絶運動のシンボルです。

DV防止をテーマとしたパネルの展示とパープルリボンやリーフレットの配布を行いました。ツリーは、来場された方から飾っていただいたたくさんのパープルリボンのオーナメントでプロジェクトを象徴する姿となりました。



● 遊学館2階ギャラリー



鶴岡市 荘銀タクト鶴岡



山形市 郷土館「文翔館」



高島町 高島町文化ホール「まほら」



米沢市 旧米沢高等工業学校本館

パープルライトアップ

～ 今年は県内8か所の建物がライトアップされました ～



酒田市 日和山公園六角灯台



寒河江市 慈恩寺テラス



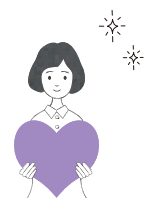
川西町 川西町役場



上山市 上山城

チェリア相談室より 令和4年度「DV防止講座」を開催しました

開催日 令和4年11月18日(金)
講師 弁護士法人 あかつき法律事務所 弁護士 土田 文子 氏
タイトル 女性が学ぶ、女性を守る法律講座 ～あなたが、あなたらしく生きていくために～



今年度の、「女性に対する暴力をなくす運動」のテーマは、「性暴力を、なくそう」です。パートナーからの暴力やAV出演強要による被害者は圧倒的に女性です。また、親権や養育費のことが不安で離婚に踏み切れないと悩んでいる女性も少なくありません。

「知は力なり」正しい知識は自分自身を守りながら、自分らしく生きていくための力となります。そこで、今回は

法律知識について学んでいこうということで弁護士の土田文子先生をお招きし、離婚手続や保護命令、ストーカー規制法、またいわゆるAV新法とその問題点についてご講義いただきました。

法律講座ということで少し難しい内容もありましたが、講義終了後は大変活発な質疑応答がなされ、講座に対する理解をより深めることができました。



性と健康

伊藤 眞知子

新型コロナウイルス感染症下で、私たちの健康への関心は以前にも増して高まっています。健康のあり方は性別によって違いがあり、罹りやすい病気にも性差があること、同じ病気でも男女で治療の仕方が異なる場合もあることが分かってきました。こうした「性差医療」にもとづき、女性の心と体を総合的に診療する「女性外来」が新たな診療科として全国に多数開設されており、また数は少ないものの、男性外来も開設されるようになっていきます。

性と健康を考えるもうひとつの重要な視点が、「性と生殖における権利と健康」です。これは、すべての人が、自分の意思が尊重されて、自分の体のことを自分で決めることができる権利をもつこと、そして人々が安全で満ち足りた性生活を営むことができ、生殖能力をもち、子どもを産むか産まないか、いつ産むか、何人産むかを決める自由をもつ、そのような健康のあり方を意味しています。1990年代半ばから国際的に提唱さ

れ、生殖にかかわる女性の性が他者（国家、家長、医師等）に管理されてきた過去のあり方を改め、自分自身の体を女性自身がコントロールすることをめざす概念です。SDGsの目標5「ジェンダー平等」には、「性と生殖に関する健康と権利をだれもが手に入れられるようにする」と明記されています。

月経、避妊、妊娠、出産、更年期等、だれもが直面する場面で、正しい知識を得て、自分で考え決定していくことができるようになるということ。避妊法の選択肢の乏しき、WHOが勧めない人口妊娠中絶法、妊娠出産の経済的・心理的負担の大きさ等々、残念ながら日本の社会は多くの課題を抱えています。先進国で達成されている水準から大きく遅れをとっているのです。男性も女性もだれもが関心を寄せ、学び合い、だれもがすべて満たされて（ウェルビーイング）生きることができると社会にしていきたいと思えます。



2021年4月からチェリア館長、東北公益文科大学名誉教授

遠藤泰夫さん 来館

広報誌チェリアvol.64(秋号)の表紙「若緑」の写真を提供頂きました。次男遠藤泰夫さん（愛媛県松山市在住）が、10月7日(金)にチェリアに來館されました。

遠藤さんは現在、講演活動を通して母、若緑の生涯について紹介しており10月9日(日)に南陽市熊野大社證誠において講演会が開催されました。

興行女相撲は、明治時代初期に天童市高揃出身の興行師が始めたとされ、清池八幡神社に女相撲の絵馬が奉納されています。現在高揃で女相撲について研究されている佐藤宏一さんも来館され、女相撲についてのお話や資料のご提供を頂きました。



右：若緑次男 遠藤泰夫さん
左：佐藤宏一さん

編集後記

- ▶ コロナで中断・縮小されていた学びや交流の機会が徐々に戻りつつあります。より参加しやすく、知識や交流を深められるように工夫が重ねられていることに感謝いたします。（工藤）
- ▶ 「コーヒー講座」の取材&ファシリテーターで参加しましたが、コーヒーの奥深さに感心するとともに良い香りにいやされました。（弘美）
- ▶ チェリアフェスティバルでは、初めましての方も、お久しぶりな方も、皆さんと一緒に新たな見識を持つことができましたね。（山口）



山形県男女共同参画センター チェリア

〒990-0041 山形市緑町1-2-36 遊学館2階
TEL 023-629-7751 FAX 023-629-7752
相談専用電話 023-629-8007
HP <https://yamagata-cheria.org/>
利用時間 午前9時～午後9時
※夜間利用の申し込みがない場合は午後8時まで
休館日 第1・3・5月曜日、第3日曜日、年末年始
令和4年12月発行
編集発行 (公財) 山形県生涯学習文化財団



【アクセス】

- JR山形駅から
バス/市役所経由路線バスで
市役所前下車、徒歩5分
タクシー/約10分 徒歩/約25分
- 自動車
山形自動車道山形蔵王ICから約10分。
県営駐車場、遊学館駐車場をご利用下さい。
入退館時に駐車券を遊学館1階の総合案内へお出し下さい。
ご利用時間に応じて駐車料金が割引になります。

チェリア
HPは
こちらから!

